

# 「CAN-DO リスト」で授業を変える！

(その4)

## ～「CAN-DO リスト」を単元・授業へ生かす①～

Q 「CAN-DO リスト」を作ったけれど、どう授業に生かしていけばいいのですか？



「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

A市立B中学校

	第1学年	第2学年	第3学年
聞くこと Listening	○身近な話題の会話において、他の発音を理解し、あいづちなどを打つことができる。 ○・・・ ○・・・	○身近な話題の会話において、他の発音を理解し、適切なあいづち等を打つことができる。 ○・・・ ○・・・	○相手の話す内容に応じて適切なあいづちを打ったり、分からないところを聞き返したりすることができる。 ○・・・ ○・・・
話すこと Speaking	○【発表】自己や他についての紹介を30秒程度のスピーチを行うことができる。(原稿あり) ○【会話】聞いたり読んだりしたこと、身近な人物や出来事について、疑問に感じた点を、話し合ったりすることができる。 ○・・・	○【発表】インタビューした結果やグラフ等を見て要点をしっかりと押さえて説明することができる。(原稿あり) ○・・・ ○【会話】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見を交換したりすることができる。 ○・・・	○【発表】自分が得た情報を、即興で要点をはずさずに伝えることができる。(原稿なし) ○・・・ ○【会話】英語を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応などを踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる。 ○・・・
読むこと Reading	○【内容理解(黙読)】120words程度の英文を、40wpm以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○・・・ ○【音読】1年教科書本文をゆっくりでも正しく音読することができる。 ○・・・	○【内容理解(黙読)】160words程度の英文を、60wpm以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○・・・ ○【音読】2年教科書本文を、発音に気をつけて正しく音読することができる。 ○・・・	○【内容理解(黙読)】250words程度の英文を、70wpm以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○・・・ ○【音読】3年教科書本文を、発音やリズムに気をつけて感情を込めて音読することができる。 ○・・・
書くこと Writing	○自分のこと、身近なことであれば、3文以上の英文を書くことができる。 ○・・・ ○・・・	○自分のこと、身近なことを中心に、4文以上のつながりのある英文を書くことができる。 ○・・・ ○・・・	○様々なことについて、5文以上のつながりのある英文を書くことができる。 ○・・・ ○・・・



A市立B中学校の「CAN-DO リスト」を例に、話すことの学習到達目標に焦点を当て考えてみましょう。



話すことの卒業時(第3学年末)の学習到達目標の一つが次のようになっています。

- 【会話】英語を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応などを踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる。

卒業時(第3学年末)の学習到達目標を受け、2学年末、1学年末の学習到達目標を段階的に設定しています。

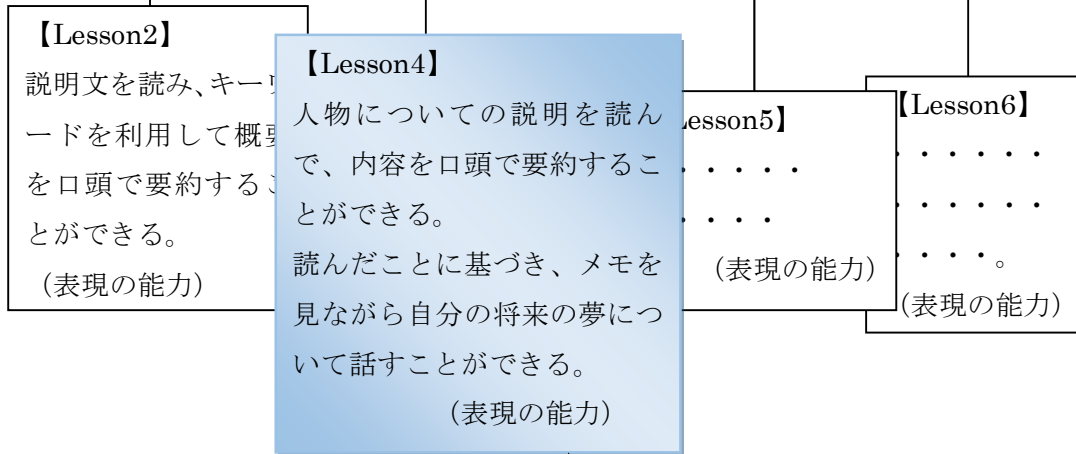
その中から、2学年末の学習到達目標を例に見てみます。

- 【会話】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりすることができる。

この2学年末の「話すこと」についての学習到達目標は、次例のように、1年を通して、複数単元で達成するよう計画するようになります。

○聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりすることができる。

(例)



その中で【Lesson4】一つに絞って見てみます。

この【Lesson4】の「話すこと」に関する学習到達目標を達成させるには、単元の中で次のような言語活動を設定する必要があります。

**言語活動 (話す)**

- ・各パートで、内容を口頭で要約する活動
- ・ペアで、将来の夢について伝え合う対話活動
- ・メモを見ながら将来の夢を話すスピーチ活動 等

パートは3つあるので、それぞれに設定

単元末に設定

このように、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の達成に資する授業を行うためには、言語活動の充実が求められることが分かります。ここでは、「話すこと」に焦点を当てましたが、他の「聞く」「読む」「書く」ことについても同様に考えます。そうすれば、それぞれの具体的な言語活動がイメージできると思います。



「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標は、授業改善のために行います。作成して終了ではなく、学習到達目標を達成するために必要な言語活動を授業に計画的に位置付け、実施・評価していくことが求められます。単元末での総合的な言語活動、帯活動としての言語活動、パート毎の言語活動など、4技能のバランスを考え言語活動を充実してほしいと思います。

<参考資料>

- ・各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き

文部科学省初等中等教育局 平成25年3月

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm)